

第 62 号



2017 年度 秋号

土木技術者女性の会 とは

〈団体名〉

一般社団法人 土木技術者女性の会

The Society of Women Civil Engineers

〈会の生い立ち〉

土木学会誌(1982年9月号)紙上で企画された「女性土木技術者の座談会」がきっかけで1983年1月に発足しました。座談会の席上で、「日本各地で孤軍奮闘している女性の土木技術者が情報交換できるような会を…」ということになり、同誌紙上で呼びかけ、約30名でスタートしました。

創立以来、任意団体として活動してまいりましたが、2013年11月18日(土木の日)に一般社団法人土木技術者女性の会として新たに発足しました。

〈会の目的〉

土木学会誌の座談会をきっかけにしていますが、女性土木技術者特有の問題をきめ細かく取り上げ対応していくために、独立した団体として活動しています。

女性技術者の質の向上と活動しやすい環境作りのために、次のような目的を掲げています。

1. 土木界で働く女性技術者同士のはげましあい
2. 土木界で働く女性技術者の知識向上
3. 女性にとって魅力のある、働きやすい土木界の環境作り
4. 女性土木技術者の社会的評価の向上
5. 土木技術者を目指す女性へのアドバイス

〈倫理規定〉

当会では次のような倫理規定を定めています。

会員は、会の目的を実現する際にあたって、下記の倫理規定を遵守するものとする。

1. 会員は、会の目的に沿って、各々の良識のもとに、正しく品位ある行動をする
2. 会員は、所属組織を代表するものではなく個人の立場で会の活動に参加する
3. 会員は、会の活動において、業務上の利益に結びつけるいかなる行動も行わない

〈会誌「輪(りん)」について〉

1983年に開催された第1回総会にて、会誌の名前についても話し合いが行われています。

「輪」の文字は、「友達の輪」という発想より早々に決まりました。

そして、「りん」という言葉の響きの心地よさと会員同士のつながりを大事にしたい
という思いを込めて名付けられました。

(1983年 第一回総会議事録・参加者証言抜粋)

目次

- 01 巻頭言 : 村上育子 企画広報局をご存じですか？
- 02 特集 1★一般社団法人 土木技術者女性の会 第 5 回総会 開催報告
03 | 一般社団法人土木技術者女性の会 第 5 回 総会報告
05 | 現場見学会レポート 名古屋港 防災・産業見学会
09 | 懇親会レポート「Civil Engineer への扉 2017 年版」製作の裏側
11 | 「Civil Engineer への扉 2017 年版」発行記念イベント
15 | 参加者の感想
中曽 萌/森脇桃子/前川利枝/川瀬 瞳/熊本好美/瀬尾弘美/石井めぐみ
- 22 新任支部長 挨拶
南 朋恵/小林千佳
-
- 23 特集 2★“見える化”土木技術者女性の会 第 2 弾:
CE への扉第 3 版編集ワーキンググループ
22 | 「Civil Engineer への扉 2017 年版」ができるまで
26 | 「Civil Engineer への扉 2017 年版」編集後記
27 | “CE2” (2006 年版) の私へ
- 30 ちょっと一息 ～私の通勤時間～
- 33 会員レポート ～土木体験いろいろ～
33 | 土木技術者女性の会を通じて / 田口未由希
33 | 古代のドボジョに思いを馳せて / 澤田茉伊
35 | 私のこれまでと、これから / 露木三津子
- 36 イベント・活動記録

・メディア掲載
・サポーターおよび新規会員募集
・寄附制度のご案内

編集後記



企画広報局をご存じですか？

企画広報局長 村上育子

唐突ですが、企画広報局とは何をしている部署かご存じですか？

まさに読んで字のごとく、会の将来の方向性を検討する企画と、また内外に向けての会の広報全般を担当している部署です。それでは、具体的に企画広報局がどのような活動を行っているのかについて、せっかくの機会ですので、この誌面をお借りして紹介したいと思います。

まずは、会員みなさんと当局の直接的な繋がりといえば、2ヶ月おきに発信するメールニュースでしょうか。いえいえ、当局はそれだけを担当しているわけではありません。企画部門としては、会の方向性について会長にヒアリングを行い、短期・長期における目標を掲げます。また広報部門としては、外部から頻繁に飛び込んでくる、取材や講演、パネリストやコーディネーター、執筆、TV 出演などの依頼について、対象となる会員を人選し依頼者へ紹介します。また各種イベントに関する後援依頼についても対応をしています。宣伝用のチラシの作成（新規会員・サポーター・寄附・CEへの扉など）、フェイスブックの管理（公式ページ・正会員グループともに）、冊子「Civil Engineer への扉」のPR、会誌「輪」の校閲、会のロゴマークに関するガイドラインや名刺用テンプレートの作成、会員が掲載されたメディア情報のデータ管理など、多岐にわたるためメンバー全員でフル回転しています（メンバーみなさんには感謝！）。

当局は、2016 年度に新設された、できたてホヤホヤの部署です。初年度は 6 名でスタートし、頻繁に飛び込む取材や講演に関する依頼対応をメインに活動してきました（その数 75 件！）。2017 年度からはメンバーの増強を図り 13 名で運営を行っています。

昨年までは、メディアに関する取材件数が多かったのですが、今年は機関誌等への寄稿に関する依頼件数が増えています。これだけで判断することは難しいのですが、傾向として、土木業界内における女性技術者の存在が目新しいものではなく、技術者としての存在価値が向上してきているのではないのでしょうか…。と少しではありますが、明るい兆しが見えつつあると個人的には感じています。ただ、これは業界内に限った話ですので、もっと広く、一般的に認知度が上がるように、まだまだ広報活動に注力していかなくてはなりません。

昨今の会員みなさんの活躍によって、ありがたいことに当会の名も広く認知されつつあります。当会は、直球・ドストレートなネーミングですので、当会の名が広まれば、必然的に女性の土木技術者の存在が知れ渡ります。業界の内外問わず、浸透・定着することを期待してやみません。会員みなさん、サポーターみなさん、これからも当会の宣伝をよろしくお願いします。

そして、いまでは市民権を得た「ドボジョ」というインパクトのある愛称は、土木界で働く特定の女性を指しています。いずれ「ドボジョ」の意味が「土木界に携わる女子」から、一般の方も巻き込んだ「土木が好きな女子」に変化していくよう、業界のイメージアップにも取り組んでいきたいと考えています。

最後に、執筆をしたい！ 講演をしたい！ 取材を受けたい！ と希望される方は、ぜひ当局までご連絡をください。お待ちしております。



特集 1

一般社団法人 土木技術者女性の会 第 5 回総会 開催報告

担当: 中部支部

日にち: 2017 年 6 月 16 日(金)・17 日(土)



2017.06.16 13:00-16:30

現場見学会 →p.5

名古屋港 防災・産業見学会



2017.06.16 19:00-21:00

懇親会 →p.9

ウィルあいち Café & Restaurant CLOVER CAFE



2017.06.17 09:15-12:30

一般社団法人 土木技術者女性の会 第 5 回総会 →p.3

ウィルあいち 第 5 会議室

総会・記念イベント終了後、運営委員会を開催



2017.06.17 12:45-13:45

「Civil Engineer への扉 2017 年版」発行記念イベント →p.11

ウィルあいち 第 5 会議室

**参加者の感想** →p.15

一般社団法人土木技術者女性の会 第5回 総会報告

- 日時:2017年6月17日(土) 9:15 - 12:30
- 場所:ウィルあいち 第5会議室 (名古屋市)
- 出席者 55 名 委任状提出者 74 名 計 129 名 (当日時点での会員数 305 名)

一般社団法人となってから、5 回目の総会が開催されました。はじめに渡辺弘子会長より、「カラフル・パワフル・ハートフル」をキーワードに、「多彩な会員が集まる場で、積極的に、お互いを尊重しながら、議論をつくしましょう。」との挨拶がありました。



渡辺弘子会長の挨拶

カラフル
多彩な会員ひとりひとりが
パワフル
積極的に
ハートフル
お互い相手を尊重しつつ
一緒に活動していこう!

会長スローガン

その後、議長からの総会成立の宣言があり、議案審議に入りました。2016 年度の事業報告の中では、昨年度の総会から設置された企画広報局より、50 件を超えるメディア対応など活発な広報活動とともに、講演会、座談会等への出席依頼や取材依頼が多く寄せられていることなどが報告されました。また、CE への扉第 3 版編集 WG からは、2017 年 3 月に発行された「Civil Engineer への扉 2017 年版」について、既に多くのマスコミから取材を受けていること、全国から送付申込みが相次いでいることなど、嬉しい悲鳴!! を聞くことができました。各支部からも、現場見学会や勉強会等の充実した活動内容が報告されました。

2017 年度の活動計画として、今後ますます活発化することが期待される会の活動を支える財政基盤を強固なものにするため、会費検討 WG にて会の現状および動向把握や収支シミュレーションを行う予定です。



総会の様子

事務局からは、法人運営における個人情報の適切な取扱いが義務化されることを受け、一般規則を改正することが提案され、承認されました。また、現在の理事の任期が 2018 年 6 月の総会時までとなっていることから、2018 理事選挙を実施する予定です。選挙は 2018 年 2 月に告示、5 月に投票予定です。



議事次第

開会

I はじめに

- 1 会長挨拶(渡辺弘子会長)
- 2 議長選出(新藤麻子)
- 3 総会成立の宣言

II 議案審議

- 第 1 号議案 2016 年度 事業報告(各支部、WG、事務局から説明)
- 第 2 号議案 2016 年度 決算報告(会計から説明)
- 第 3 号議案 ワーキンググループの設置について(案)
- 第 4 号議案 運営委員及び会計監査委員の選任について
- 第 5 号議案 2017 年度 事業計画(案)(各支部、WG、事務局から説明)
- 第 6 号議案 2017 年度 予算計画(案)(会計から説明)
- 第 7 号議案 一般規則の改正について

III 報告事項

- 第 1 号報告 2018 理事選挙について

次回・次々回の担当支部確認

次回の総会(2018 年度)は西日本支部が担当であることを確認した。また、次々回の総会(2019 年度)は北海道支部が立候補し、承認された。

閉会



質疑応答

当会の総会では毎年、議案審議に際し非常に多くの質疑がなされます。今回は特に会計報告や決算報告など、会の財政に関する質疑応答から一部抜粋して紹介します。総会の議事録については、当会ウェブサイト<会員ページ>に掲載予定です。

【2016 年度活動報告の会計報告より】＊〔 〕内は総会資料のページ番号

質問 1) その他支出・その他収入の内容について知りたい。〔1-33, 1-35, 1-39〕

回答 1) その他の収入(10,000 円)は、支部活動でポスターセッションに参加した際、展示物作成費として、主催者から支給されたもの(1 団体一律1万円)である【東日本支部長】。その他支出(1,060 円)は、現場見学会の際の保険代である【中部支部長】。その他支出(3,240 円)は、現場見学会及び意見交換会を開催した際の保険代や資料印刷代の実費である。また、非会員からは実費をいただいております、その金額を「その他収入(1,070 円)」としている【西日本支部長】。

質問 2) 支出計上が0となっているが、仕上り確認のための印刷などはどうしているのか。〔1-42〕

回答 2) 実際には編集委員が自宅やオフィスで出力しているが、今までは計画予算に挙げていなかった

た。誰でも編集作業ができるように、2017 年度からは予算計上している【輪編集長】。

質問3)「山田顧問打合せ」とあるが、昨年の予算計上の際の内容には無い項目である。別項目としての計上となるのではないか。〔2-6〕

回答3) 今回は基本的に旅費なので「会議費」で計上するのが妥当と考えた【事務局長】。

質問4)「アルバイト」について、今回の総会資料で初めて出てきたように思うが、アルバイト採用の背景、経緯を教えてください。〔1-19〕

回答4) 会員数の増大により、会費請求に関する事務作業が膨大になり、会計チームでは対応が難しくなった。そこで、アルバイトを採用することについて会計チームから運営委員会に相談があったので、運営委員会で審議の後、会長の承認を受け、事務局で臨時雇用に関する規程を作成し、アルバイト採用に至った【事務局長】。

報告：深瀬尚子(西日本支部)

現場見学会レポート 名古屋港 防災・産業見学会

日時:2017 年 6 月 16 日(金)13:00-16:30 参加者:30 名

総会前日に現場見学会を開催しました。この日の名古屋は梅雨の時期にしてははじめじめしておらず、晴れて過ごしやすい一日でした。

今年の現場見学会では港務船「ぽーとおぶなごや2」に乗って(定員 85 名の船をなんと貸し切り!)名古屋港を見学しました。名古屋港管理組合の方の説明を受けながらの 1 時間半ほどの乗船でした。

まず歓迎のあいさつに続き自己紹介をし、その後みなさんで船の前で写真を撮りました。これから乗る船の大きさが分かります!



港務船の前で



船内の様子

この船は、なんと国際会議で使われることもあるそうです! 災害時には支援ができるよう、緊急物資輸送用クレーン、消防ノズル、海水淡水化装置などの設備を搭載しています。そんなすてきな船に乗って、見学は始まります。

名古屋港は開国から半世紀を経た 1907 年に開港しました。今年で開港 110 周年を迎えます。長きにわたり中部地方の発展とともに歩んだ名古屋港への冒険に、いざ出発です! 解説くださる名古屋港管理組合の危機管理課長 清水さんは 1 級土木施工管理技士の資格をお持ち

だそうです。土木に関する質問がたくさんできました。



コンテナ船とガントリークレーン

開港当時、中部地区では瀬戸物などの陶磁器や織物などの地場産業が発達しており、輸出を盛んに行っていました。時代とともに主力産業は自動車、工作機械、航空宇宙産業に替わり、日本を支えてきました。総取扱貨物量、貿易黒字額は日本一を誇ります(平成 27 年)。燃料は石炭から石油へと替わり、鉄やセメントなどの輸入や自動車の輸出の増加により、土地が狭くなりました。そして拡張を重ね、名古屋港といえども名古屋市外へ広がり、今では 4 市 1 村にまたがっています。

最近の海上物流はコンテナの使用が主流です。コンテナのサイズには規格があります。サイズがそろっていると荷物を積むときや運ぶときに管理しやすいからです。標準的なコンテナの長さは 10m 以上あるため、そのコンテナを運ぶコンテナ船はとても大きいです。係留する岸壁は 1 隻あたり 400m ほどにもなるそうです。400m といえば東海道新幹線 1 編成分の長さにも相当します。見学した日には巨大なコンテナ船が停泊していたのですが、大きすぎて写真に収まりきりませんでした。写真上部に写っているのはコンテナを積み下ろしするガントリークレーンです。名古屋港は 13 のバースに 28 基のガントリークレーンを有しています。

港は 24 時間 364 日(元日のみ休み)稼働しているそうです。それほど貿易にはスピードが大切です。24 時間稼働といえども荷物の受け入れ時間は決まっています。運んできた荷物を港に置いておくと保管料がかかるため、早く積んでしまうそうです。

埠頭の突端にひときわ高いビルが建っていました。名古屋港船舶通航情報センターで、往来する船の管理を行っているそうです。陸上と同じで、海上でも安全のため交通規制が行われています。



栈橋に保留される港務船

名古屋港では物流だけでなく鉄鋼生産、石油や天然ガスなどエネルギーの供給も行っています。船からは火力発電所や製鉄所などを眺められます。広大な用地があり、大量の冷却水を必要とすることから、港にあることが多いそうです。

海岸から船に乗り込む際に通る栈橋は実は浮いているそうです。言われなければ浮いていると気づかないほど、揺れはなく、みなさんで集合写真を撮れるほどでした。浮体式防災基地と呼ばれ、災害時には陸から離され海上からの支援活動に使うそうです。普段気にも留めないところにある防災の工夫を知ることができました。



ポートアイランドと呼ばれる人工島です。港の海底に砂がたまりと大型船が行き来できず、港として使えなくなります。そこで、海底の砂を取り除く浚渫(しゅんせつ)船を使って水深を守ります。浚渫した砂をためているところがこのポートアイランドです。無人島ですがヌートリアというカピバラに似た哺乳類が生息しているようです(筆者が仕事で上陸した際には見られませんでした)。

下船後は名古屋港の説明を受けるため別の建物に移動します。ですが、ただ歩くわけではないですよ！ 途中の歩道橋の上から防潮扉を見ることができました。高潮や津波が起こった際、沖合に設置された高潮防波堤により波の威力を食い止め、港内への侵入を抑制します。そしてさらに岸壁を超えてやってきた波が市街地へ侵入するのを防ぐのが防潮壁です。ですが港に連続した壁を造ってしまうと港湾活動に支障をきたします。

そこで人や車両の出入りなどが必要な箇所に設置されたのが防潮扉です。高潮や津波の際には閉鎖し、市街地への浸水を防ぎます。今までは扉が重く、閉鎖に時間がかかっていました



防潮扉
(写真中央の縦線上を扉が閉まります)



途中、デッキに上がって潮風に
あたりました。みなさんで記念
撮影！

が、軽量化(アルミ化)や電動化が進められ、早く閉鎖できるようになりました。これは防潮扉の操作者が早く避難できることにもつながります。また、防潮壁の地盤は液状化しないよう対策が行われています。ボーリング調査を行い、地震波計で地盤を調べ、軟弱な層には薬液を注入しています。



名古屋港の防災について説明の様子

会議室では名古屋港の防災についてご説明いただきました。

1944年の昭和東南海地震や1945年の三河地震などで岸壁、護岸、防波堤や工場など、名古屋港のほとんどの施設が全壊・半壊しました。第二次世界大戦では爆撃も受け、終戦の頃には壊滅状態でした。さらにその後1959年に日本災害史上最大の伊勢湾台風襲来、死者・行方不明者5,098名の甚大な被害を出しました。予想をはるかに超えた波が押し寄せ、貯木場から木材が流出しました。この原木が波によって暴れ、家屋の甚大な倒壊、人的被害をもたらしました。伊勢湾台風の被害を教訓に整備されたのが高潮防波堤です。地震によ

る津波にも対応できるよう、改良工事が行われました。

湾の中にある名古屋港は外海から距離があるにも関わらず、なぜ大きな被害を受けたのでしょうか。それは立地状況にあります。湾の奥は台風の風により海水が集まってしまい、潮位が上昇することから、被害を受けやすいのです。伊勢湾の最奥部にある名古屋港は被害を受けやすい立地条件にあるのです。さらに背後は軟弱地盤であり、日本最大の広さの海拔0m地帯が広がっています。長期冠水や液状化の恐れもあるため防災が重要です。(ちなみに名古屋城は軟弱地盤のすぐそばの台地に建っています。400年前に築城した徳川家康は地形を理解していたのですね！)

会員からの質問にも丁寧にお答えいただき、充実した見学会は終了しました。

普段の暮らしを支えているにも関わらず、あまり知らなかった港について知ることができました。また、全国のみなさまに名古屋港をご覧いただけて嬉しく思いました。初めての参加にも関わらず、たくさんの方とお話でき、充実した時間を過ごせました。そしてなにより準備いただいた名古屋港管理組合のみなさま、「ぽーとおぶなごや2」のスタッフ、そして中部支部、事務局、会員のみなさまにこの場をお借りして御礼を申し上げます。

報告：岡本茉莉(中部支部)



名古屋のシンボル、「名港トリトン」です。伊勢湾岸自動車道が通っており複数の高速道路をつないでいます。世界的規模を誇る3つの海上斜張橋です。今回ぐったのは3つのうちの真ん中、名港中央大橋です。(船の窓にかかる海水によりぼやけた写真になってしまいました。)

懇親会レポート「Civil Engineer への扉 2017 年版」製作の裏側

日時:2017 年 6 月 16 日 19:00-21:00 場所:ウィルあいち Café & Restaurant CLOVER CAFE 参加者:36 名

見学会終了後、宿泊施設であるウィルあいち内で開催された懇親会は 36 名の方が参加しました。今回の懇親会の大きなテーマとなったのが、「Civil Engineer への扉」完成秘話!! 全員の手にはまだ渡っていなかった 2017 年版は、土木分野ではどのような仕事があるのか、業界内の人たちがどのような時間の過ごし方をしているかなどといった、親しみやすい内容



懇親会の様子

です。その 2017 年版を製作していく中で苦労した点や改善点などの紹介があり、会場内

が大いに湧きました! その中でも一番の盛り上がりを見せたのが、「CE への扉」4~5 ページにあります扉絵「土木のしごと!」の改善点探しです。このページでは一目でわかりやすく土木の仕事が描いてあります。そんな中で「あれ??」と思うような絵になっているものがあり、それを参加者で見つけていくというものでした。一例を挙げますと、初稿(図-1)

左下にある住宅の近くを新幹線が通っていますが・・・こちらは建築限界を侵しているのでは!? という意見がありました。その他にもたくさんの意見が会場から挙げられ、とてもおもしろく興味深い内容のものになりました。

最後には渡辺会長から閉会の挨拶があり三本締めで解散となりました。会に参加されなかった方々も「CE への扉」を見て楽しんでいただきたいと思います。

報告: 仲松ジャニス(中部支部)



図-1 CE への扉 2017 年版 扉絵(初稿)

=== オ マ ケ ===

懇親会会場で披露された、「OE への扉 2017 年版」の扉絵の修正の経緯です。少しでもわかりやすく、正確に、土木の仕事伝える・・・土木技術者としてのこだわりが表れていますネ！

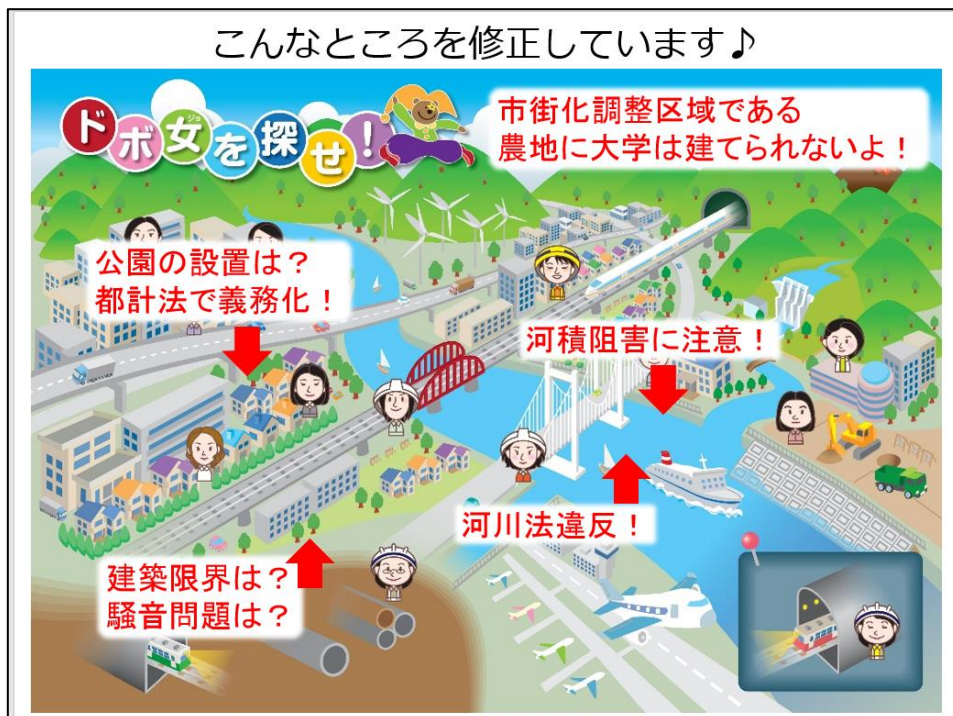


図-2 扉絵の修正点!?



図-3 扉絵の最終稿



総会終了後に「Civil Engineer への扉 2017 年版」(以下、CE2017)の発行記念イベントを開催しました。本イベントは、CE2017 の編集や執筆に関わった方の生の声を聞くことで、より CE2017 の魅力や活用方法などについて理解を深めることを目的に開催したものです。執筆者 14 名のうち 5 名および編集 WG から 2 名(オブザーバー含む)が登壇し、司会者や会場とディスカッションを行いました。

日 時:2017 年 6 月 17 日(土) 12:45~13:45

司 会:水野香織

執筆者:深瀬尚子、佐野理、川瀬瞳、青木治子、小川由布子

WG メンバー:藤代祥子リーダー、渡辺弘子(オブザーバー)

1. はじめに

近年土木業界も女性が増え、働き方も多様化していることから「Civil Engineer への扉」をリニューアルした。リニューアルにあたっては、多くの方からの寄附を募ることでようやく実現することができた。2017 年版のターゲットは主に女子学生だが、男子学生にも十分役立つ内容となっていると考えている。以下に、外部の反響を少し紹介する。

- ・女子学生の進路の選択肢が増える
- ・早いうちに知りたい情報である
- ・「Civil Engineer への扉」が継続できていることが良い
- ・2017 年版のチャートや見開きとなっている土木の仕事がわかりやすい
- ・寄稿した会員の 1 日のスケジュールは思わず見入ってしまう
- ・最後の渋い三人のベテランがとて面白い！



渡辺弘子会長の挨拶



サポーターからの応援メッセージ

2. ディスカッション(司会者より)

○土木の業界に飛び込むきっかけになったこと

⇒大学の研究がマニアックで、社会に役立つのか疑問だった。その答えを探して、この世界に飛び込んだ。

⇒ただただ大きなものが作りたいという理由だった。

○土木業界で改善が必要だと思うところ

⇒土木構造物はプロの技術の結晶。そのことをもっと一般の方にも伝えるべき。

○がんばっていることやがんばれる理由

⇒常に自分の能力の2割増し以上でないと成長できないと思っているので、踏ん張っているのだと思う。学生にも上限を決めずにいろいろなことに取り組んで、自分の器を大きくしてほしい。

⇒大学時代の研究のおかげで様々な考え方の人に出会い、そのおかげで今まで仕事も続けてこれたと思う。

○女性の特徴について、入社から今まで変化があったこと

⇒とにかく最初は男の人に負けないようにがんばっていた時があったが、重いものを持ってもらったときに、ふと頼んでもいいんだと気を張らずに対応できるようになった。

○仕事の魅力

⇒単純に物を作るのが楽しく、設計やプランニングに携われることが魅力である。自分に合った『仕事の取り組み方』を模索したことが今につながっている。

3. ディスカッション(会場より)

○CE 初版のころと比べ、女性技術者の置かれている状況などに時代の流れを感じるか

⇒現状は当会設立の頃から思ったほど変わっていないのが正直な感想である。しかし、最近は自分のキャリアを積みながらライフイベントと折り合いをつける人が多くなったと感じる変化がある。

○女性技術者に対する会社や家族からの理解

⇒最近では女性社員を増やそうという動きがあるので、

理解がある組織も多い。しかし、組織内の女性技術者の人数がまだまだ少ないのが現状である。女性に対して、世代間での理解の差もある。

○女性の夜勤業務などに対する組織からの反応、扱いなど

⇒社内規程等について認識されてないこともあるので、自分でも規程を確認すること、周知することも大切。場合や状況に応じて自分の思いを伝えることも必要である。



「似顔絵」バッジを付けた執筆者



ディスカッションの様子



会場からの質問

○都市部と地方での違い

⇒都市部と地方でそれぞれ異なるメリット・デメリットがある。情報インフラの発達等により、昔より地方で仕事しやすくなってきている。

○学生の進路選択

⇒学生は身近な先輩の意見を重視するが、長いスパンでの視野を持ち、様々な人の話を聞いて、増やした選択肢の中から進路を選択することが大切である。情報収集が重要。

○会への参加を促すコツなど(組織における会への参加に対するサポート)

⇒会のメリットを業務に活かせることを会社へ積極的に PR し、参加しやすい状況を作っている。会社にとっても社員が井の中の蛙であることはよくない。女性の活躍を活かせることができないといけない。

4. WG より概要説明

(1)CE2017 の対象者

対象は土木を目指す女性とし、土木のしごとを知ってもらいたいという想いで作成した。また、最近入社された方など男女を問わず壁にぶつかったときの参考にしていいただければと考えている。

(2) CE2017 の構成

p.1, 36: デザインのくまさんは、1999 年版、2006 年版に続き須田久美子さんのお嬢様、好さんに描いていただいた。

p.2: 冊子のためにご寄附くださった方のお名前を掲載した。

p.3: 土木の仕事の流れと関わり方として、各所属機関が流れの中でどのような業務を担当するのかを表現した。

p.4-5: 土木のしごとを絵で表現した。大きく分けて構造物、災害、災害等の対応策を色分けして明示した。

p.6-33: 14 名の執筆者を見開きで紹介。仕事の内容はもちろん、事前にリサーチした学生さんの質問の中から自由に執筆いただいた。リサーチには小川由布子さんに協力いただいた。

p.34: 会の情報。

p.35: 当会の発足初期から活躍している会員からのメッセージ。

(3)こだわりのポイント

・執筆者の選定

当会の全支部から、様々な所属機関、同じ所属機関でも様々な仕事、年齢層や育児経験の有無など多様な働き方があることを伝えられるよう、幅広く執筆者を選定した。

・デザイン

最近では、活字離れが進んでいるとのことで、より文字が少なく見える配置を心掛けた。また、各執



藤代祥子 WG リーダーの概要説明

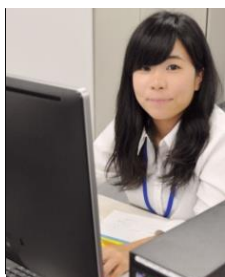
筆者の似顔絵を作成することで親しみを持ってもらえるようにした。

(4)冊子発送担当の紹介

冊子の受付発送業務は、事務局の佐藤亜紀子さん、笹岡里衣さん、岡田侑子さんが担当しており、わずか2ヶ月半で約60件の発送業務を担当いただいた。今後も引き続き対応いただく。

報告：前川利枝（中部支部）

参加者の感想



初めてづくしの名古屋

中曾 萌（西日本支部）

今回入会して初めて総会に参加させていただきました。そして、初めての名古屋でもあり、会員の方とお会いするのも初だったので、初めてづくしでどきどきわくわくの2日間でした。

集合場所に到着して、まず女性の多さに圧倒されました。女性の会なので当たり前かと思いますが、土木の世界で普段男性に紛れ込み働いているせいか、こんなにも女性の技術者がそれも全国から集まっているということがとても新鮮でした。また、わたしは建設コンサルタントに勤務して2年目なのですが、同じ2年目で、ゼネコンなど異なる職場で働いている方にもお会いすることができ、社内とは違った刺激を受けることができました。

名古屋港では防災施設の見学を行い、名古屋港管理組合の方に防災体制と産業について教えていただきました。名古屋は防災施設に力をいれていると事前に調べていたので、どんな施設があるのかとても楽しみにしていました。高潮防波堤、防潮堤、防潮扉や堀川口防潮水門ポンプ所、中川口通船門、中川口ポンプ所などといった施設があり、それぞれの役割についてお話しいただくとともに、高潮被害について名古屋港の地形の特色を踏まえた説明をいただき勉強になりました。実際に見学してみると本当に大きな港で、これだけ大きな港で防災施設を整備することも、それらの維持管理を行うことも容易ではないだろうと感じました。名古屋港の取り組みについて知ること、私たちの仕事は人と財産を守る重要な仕事であると改めて気づかされ、使命感に燃えました。

懇親会では全国の先輩方といろいろなお話しができ、「どぼじょかっいいい！」と感じました。わたしはまだまだひよっこですが、先輩方のような堂々としたかっいいい女性技術者になろうと思うことができました。また、初めての名古屋めしも楽しみました♪

2日目の総会と Civil Engineer への扉の記念イベントでは、先輩方の女性の会と土木に対する熱い思いを感じました。Civil Engineer への扉については、前日の懇親会で製作時の工夫点、苦心点などのエピソード紹介をお聴きしていましたが、実際に読んでみて本当に楽しく最後まで読める工夫がいっぱいの冊子でした。これは絶対読んでほしいと思い、母校の女子学生に配布させていただきました。ありがとうございました。

たくさんの女性技術者の先輩方に囲まれ、とても居心地が良く幸せな2日間でした。今「どぼじょ」が増えてきているというお話が総会の中でもあったかと思いますが、女性の会の活動を通して、土木の魅力をもっと多くの人に知ってもらい、この土木の世界で一緒に働く女性がもっと増えればいいなと心から願っています。



高潮防波堤



名古屋城



はじめての総会参加 森脇桃子（西日本支部）

今回初めて見学会から夜の懇親会、総会と連続で参加させていただきました。色々とお話ししてくださったみなさま、ありがとうございました。

今まで総会に参加する機会があったのですが、もじもじしているうちに入会して早3年、やっと今回が初参加でした。メールで「一度来てみたら？」と軽く誘われたのをきっかけに、上司に話してみたところ（相談とも言えない雑談レベルでしたが）OK を貰えて、ドキドキしながら参加しました。

1日目、仕事や就活なんかで立ち寄ったついでに駅前をぶらつく程度の名古屋でしたが迷わず無事到着し、地下鉄の中でたまたま西日本支部の方とも合流。緊張しながら、集合場所で早速みなさんに挨拶できました。初参加でしたが、この見学会が始まるまでのひと時が一番大勢と話した時間でした。初参加をお考えの方、是非見学会からどうぞ！

見学会では港務船に乗ってゆっくりと名古屋港内を案内してもらいました。私自身は山岳トンネルやダムなどの土木工事現場にばかり関わってきたので、今回のような防災に視点を当てた構造物の見学会は新鮮でした。

夜はみなさんと一緒にウィルあいちに泊まりました。私の部屋は4人部屋です。女性社員が少ないこの業界に入ってから相部屋の機会なんてなかったので、合宿のようでワクワクしました。夕食時は食事をしながら、支部ごとの新入会員の紹介や総会に向けての挨拶、そしてメイン？の「Civil Engineer への扉 2017 年版」の発刊裏話イベントなど盛り上がり、そのまま二次会にも参加！知り合いも少ない私でしたが人見知りを発揮する間もなく、盛り沢山なのにあつという間の楽しい夜でした。

2日目、せっかくの名古屋なので朝食は喫茶店へ。モーニングはコメダしか経験がなかった初心者でしたが、会の方と一緒に本場のモーニングを体験しました。コーヒーを頼むと、明らかにこっちがメインだよというトーストとゆで卵。ボリューム満点でおいしかったです。

その後、メインイベントの第5回総会。昨日までの雰囲気とはガラリと変わり、みなさんと真剣に会の未来について話し合っていました。社内ですら女性が少ない私は、他社の方はどういう働き方をしているのかな？ などという野次馬根性でこの土木技術者女性の会に参加したのですが、想像以上にしっかりと目的があつて、真剣に運営されている会でした。

今回をきっかけにもっと関わっていかれたと思います。そしていろいろな方のお話を聞いて、私はもっと気楽に、もっと身軽にいろいろなことをやって良いかもしれない、と少し肩の荷がおりて視野が広がった、そんな2日間でした。



お土産に買った“名古屋づくり”と“ういろ”
そして「Civil Engineer への扉 2017 年版」



会員歴約 20 年にして、はじめての総会 前川利枝（中部支部）

あれは、私が初めて就職して間もない、気持ちは学生、見た目は社会人だった頃、上司の勧めで女性の会に入会しました。当時は見学会には数回参加したものの、総会に参加したことはありませんでした。それから時を経ること約 20 年、初めて総会に参加しました。

初参加の総会は、所属する中部支部での開催であり、少しですが準備等に関わらせていただきました。たいした働きはできませんでしたが、それでも、総会を経て感じた支部内の連帯感ったら！

見学会に集合した時に、なぜかハグしそうな支部のメンバー。懇親会に凝らされた工夫に胸アツ。2 次会での濃厚なおしゃべりからの、限られた時間内での素早い入浴。

そして、翌日は総会。総会中も、うまく役割を分担できていたと感じました。総会後に、会場地下のレストランでみなさんと食事をしながら、安堵感や充実感を分かち合えたことが印象的でした。

私のこれまでの会員歴約 20 年の間に、様々なライフイベントや転職がありました。会の活動にいつも注目していたもののあまり参加できない時期が続いたのは、子育てなどによる自分の時間の制約、加えて自分の気持ちだったと思います。私はずっと自分のことを「土木技術者です。」という自信がありませんでした。胸を張ってその言葉を言いたくて、心の中では必死でした。でも、いつもどこかで、これが技術者と言える状態なのか、そんな問いが頭にありました。そのような気持ちで、バリバリ活躍されている方の多い会に参加することを躊躇していました。

でも、久しぶりに思い切って参加してみると、みなさん、自然。プライベートな情報を交換したり、マニアックな話を共有し大笑いしたり。中には、私のこれまでの 20 数年に興味を持ってくださり、聞かれることもありました。振り返ってみれば、私は途切れ途切れにキャリアを重ねてきたけれど、今も土木技術者として働いている。そのことが大事。そう感じました。

総会後に「Civil Engineer への扉 2017 年版」発刊イベントがあり、様々なキャリアの女性技術者が紹介され、その思いはさらに強くなりました。もっと詳しくお話を聞きたい方もいらっしゃる、またお会いするのが楽しみです。

これからも、多くの方にお会いして交流できることを楽しみにしています！



懇親会のテーブルには「名古屋めし」の名前がつけられていました。懇親会のお料理にも名古屋めしが並びました。



はじめての総会 in 名古屋 川瀬 瞳（中部支部）

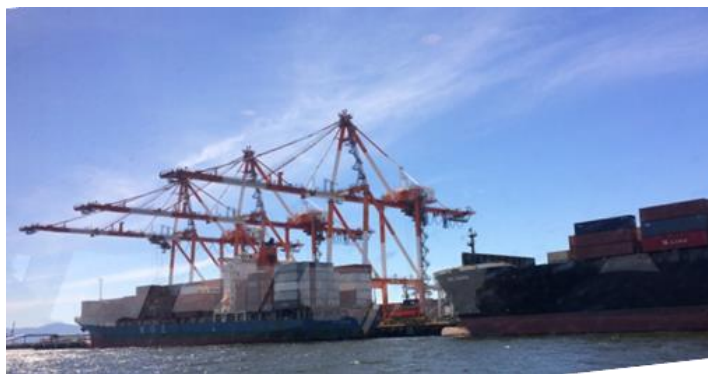
2年前に入会してから総会参加のチャンスは3回目となり、ようやく参加することができました。開催地が中部と地元なので、お手伝いもわずかながらですが、させてもらいました。現場見学では、終始和やかなムードで名古屋港の見学が進み、さあ次は総会だな〜と、その空気感で進もうとしていたら、開始早々、激しい議論が繰り広げられ、「想像していたのと違う！」と頭が真っ白になり、ただ聞いていることしかできませんでした。開始前までは、談笑していたメンバーの顔つきが一変し、意見をぶつけ合う真剣な顔になり、その迫力に心臓のドキドキが止まらないほどでした。みながこの会を大切に思い、女性技術者が土木の仕事をするについて真剣に考えていることがわかり、最後は感動しました。今はまだ、知識不足もあり自分の意見がわかっていませんが、ゆくゆくはこのような場で意見を言えるような人間になりたいと思いました。

総会後に開催された、「Civil Engineer への扉」のイベントでは、執筆者の一人として参加しました。司会の方から最初に話をふられたのですが、総会の緊張感を引きずりすぎていて、しゃべり始めは声が震えてしまいました。うまくしゃべれていたかどうか心配ですが、とても良い経験をさせてもらい感謝の気持ちで一杯です。自分が学生の頃には、実際に仕事をしている女性の先輩から、お話を聞く機会にあまり恵まれなかったので、この冊子を通して会のメンバーと多くの学生達とが交流する架け橋になれば良いなと思いました。

総会に参加し、本当に沢山のパワーをもらいました。ありがとうございます。また来年もぜひ参加したいと思います。西日本支部の皆さま、準備はとても大変だと思いますがよろしくお願いします。



船内からの風景(名港中央大橋)



船内からの風景(コンテナ荷役作業風景)



色彩あふれるパワーに触れて～初めての総会参加～ 熊本好美（東日本支部）

□緊張の初見学会

一昨年度の東日本支部新年会、昨年度の「じゅうたく小町（住宅メーカーの女性技術者の集まり）」との交流会に参加をしまいましたが、今回初めて総会・見学会に参加を致しました。土木技術者ではない仮設トイレメーカーに勤める私が、どこまでみなさんについていけるか不安もありましたが、東日本支部でのイベントでみなさんと楽しく過ごせたことを思い出し参加をした次第です。

名古屋港での見学会、乗船前の自己紹介で私と同様に初参加の方が多くことがわかり、ふっと緊張が解け始めました。さわやかな海風のなか乗船すると、重厚感あふれる船内とふかふかの椅子にすっかりテンションが上がってしまいました。名古屋港管理組合の方のわかりやすい説明を聞きながら、じっくりと港の歴史や構造を学ぶことができました。また後半のデッキに上がっての見学もとても気持ちの良い時間でした。

□やや緊張の懇親会

宿泊先のウィルアイチでは、今日初めて会った方との同室というのも緊張しました。これは大人になるとなかなか経験できないことです。そこで、お菓子作戦。東京駅で買ったクッキーをおすそ分けすると喜んでいただき（気づかなかったのですが東京限定のクッキーだったようです）、色々なお話もできました。ここでまた少し緊張が解けたように思います。

懇親会はくじ引きでの着席。ここでも初めてお話する方がほとんどでしたが、お酒とお料理の力もあって楽しい時間を過ごしました。クイズ大会等の中で会のことを知ることもでき、もっとみなさんとお話したいと思い二次会まで参加してしまいました。この一日でたくさんの方と知り合いになることができました。

□刺激的な総会

2日目の総会。ここまで白熱する総会を私は初めて経験しました。議題を上げる方もそれに応える方も、会を良くしたいという思いに溢れた方ばかり。みなさんの知識、受け答え、すべてが刺激的であり自分にはないものばかりと反省をし、勉強になりました。

□色彩あふれるパワー

2日間参加をして感じたのは、仕事を、人生を楽しむみなさんの個性あふれるパワーです。渡辺会長が発表したキャッチフレーズ「カラフル・パワフル・ハートフル」のように、人それぞれの色彩あふれるパワーを強く感じました。懇親会でも、ふと仕事や会の運営について真剣に議論されるのを見て、忙しい中でもさまざまな取り組みをするみなさんの姿に刺激を受けました。

また嬉しかったのは、当社の女性用仮設トイレをご存じの方が何人もいらしたことです。感想、意見を伺えたことでさらにやりがいを持つことができました。

今後私自身もっと成長をし、他の方に私色のパワーを与えることができる人間になりたいと思います。またお会いできますように！！

ぽーとおぶなごや2のデッキにて





アクティブとはこのことか！ と思った初めての総会参加 瀬尾弘美（東日本支部）

社会人歴 27 年で、土木技術者女性の会のことは、ずっと知っていたのに、昨年初めて会員になりました。そして、ようやく総会に参加することができました。まずは、総会に携わられたすべてのみなさんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

□見学会

初めての参加で、たぶん知り合いもほとんどいないだろうなあ、と、ソワソワしながら名古屋港駅から集合場所に向かいました。途中、看板を持った中部支部の方の笑顔に迎えられホッと、会員らしき人に声をかけて（大植敦子さんでした）同行してもらいました。そんなドキドキで始まった初日でしたが、見学地の充実した内容に驚き、大満足でした。名古屋港は日本一がたくさんある港ということで、楽しみにしていましたが、名古屋港管理組合の方の中身の深い、次から次へと溢れるように出る数字、聞かせどころ満載の説明に、うっとりとしながらあっという間の1時間半。とても貴重な体験ができたと思いました。瀬戸内生まれの私は、もともと船が好きでしたが、長らく船で潮風を受けることがなかったので、堪能しました。ありがとうございました。

□懇親会

最初の席の配置から、中部支部のみなさんの温かい工夫があちこちにあって、本当に楽しませていただきました。メニューも名古屋飯ざんまいで、おいしくいただきました。懇親会は、いろいろな方とゆつくりお話ができるのが、とてもいいですね。わたしは、実は人見知りなので、懇親会は結構苦手なのですが、時間がたっぷりあると、気持ちも楽になってみなさんとお話できるようになります。

□総会

これまで、いろいろな会の総会に出てきましたが、ここまでアクティブだった総会は初めてでした。みなさんがとても真剣に話をされていて、土木技術者の女性である、というだけしか共通点のない私たちをしっかりとつなぎとめている原動力を見た思いでした。

土木の女性は、大学でも会社でも未だに少数派で、女性同士で集まることは意識しないとできません。一方で、あえて女性だけでつむむことを避けている人も多いのではないのでしょうか。私もその一人でした。会社では男性同様に育ててもらっているのですがその必要性を感じなかったかもしれません。しかし、志を同じくする女性たちの集まりは、なんと居心地の良いことか、ということを今回の参加で思い知らされました。気の置けない仲間、というのでしょうか、何でも話せるし、後輩たちにもなんでも話してあげたくなる、とてもよい集まりだと思いました。

私は会社ではダイバーシティ推進を担当しています。女性活躍もその一つです。まだまだ女性が活躍しにくい業界です。その中で、土木技術者女性の会の存在はとても心強いものです。当社の女性社員たちにも、ぜひ入会を進めようと思いました。

最後に提案ですが、ダイバーシティ推進の中で、「LGBT」についても最近考えるようになりました。この女性の会も身体が女性の人だけでなくトランスジェンダーの人など、自分が女性だと自認する人は受け入れるようにできないでしょうか。そうすると、もっと豊かなしなやかな集まりになるように思います。



港務艇の国際会議対応会議室にて



私といえば……やっぱりダム！ 石井めぐみ（北海道支部）

第5回総会は私にとって3回目の総会でした。仕事の都合で見学会に参加できなかったのは残念です。昨年は1年間で10回ほど名古屋に出張できていたので、6月の名古屋の暑さに負けないように気合を入れて来ました。今年は2次会からの参加です。水野香織さんと宿泊先で待ち合わせをしていると、そこに宿泊していない村上育子さんと遭遇。また2次会の会場前でお店に入ろうとする広野彩さんと遭遇。運命的な出会いを感じつつ楽しく夜が更けていきました。

総会は、6名分の委任状を背負い参加しました。責任重大！！堂々と「7」を掲げました。

総会の後は「CEの扉 2017年版」完成イベントが開催されました。扉絵のイラストは実在する構造物を模しているそうです。早速ダムのアスペクト比より、本州のダム急峻な地形に位置しているダムと見当をつけ、行ってみたいダムの画像から、ゲートや洪水吐の数や形状が似ていた宮ヶ瀬ダムと予想しました。*1)

運営委員会への代理出席も終えて戦闘モードを解除し、北海道からの遠征組と合流しました。楽しすぎて写真を撮ることも忘れ、宿泊先の門限もあり早々と撤退→部屋飲み。みな境遇や考え方が違いすぎておもしろい。男性の前では決って話せないガールズトークに花を咲かせました。翌日は、朝からレンタカーを借りて旅行！今回の最終目的地は徳山ダム♪遅くまで日本酒や焼酎を飲んでいた私はナビゲーターです。名古屋といったらモーニングということで、喫茶店でモーニングを堪能しました。

国道となっているけど細くてすれ違えなかったり、ぎりぎりすれ違えるような細い道でスピードを落とさない車に驚いたり、普段広い道しか走っていない道民には慣れないことのオンパレード。ナビの到着予定時刻を短縮して当たり前なのに、オーバーして到着するなんて…。徳山ダムでは、北海道から来たと喜ばれ、パネルを全部説明していただきました。素敵な写真も見せてもらいながら、帰りの飛行機の時間が気になって、集中して聞くことができませんでした。ごめんなさいm(_ _)m 下流の横山ダムでもダムカードをいただき、今回は2枚収集できました。また、恒例の(?)ダムカレーをいただいたのですが、お腹いっぱいになり過ぎてまっすぐ立てませんでした。帰りは一番細い道に慣れていそうな人の運転でナビの時間より早く空港につき、飛行機に無事搭乗できました。

今回の旅は最終目的地を当日に決めるという弾丸旅行でした。来年は残念ながら参加はできなさそうですが、恒例行事になりつつあるので、これからも総会の後の旅を続けていきたいです。目的地はやっぱりダムかな～。

*1) 宮ヶ瀬ダム…「お見事！正解です！」(藤代WGリーダーより)



徳山ダムと横山ダムを模したダムカレー



集合写真(横山ダム)一番左が執筆者

編集長注:「Civil Engineer への扉 2017年版」の扉絵については pp.9-10 の記事をご覧ください



支部長就任にあたって 南 朋恵（北海道支部）

新任支部長挨拶

このたび、北海道支部長に就任しました南と申します。みなさんご存じのとおり北海道は広くて、面積でいえば九州地方に四国地方を2個加えた(?)広さより大いんです。また、都市間距離が長く、私が住んでいる帯広から札幌までは約 200km。JR で約 3 時間、自動車でも 2 時間半もかかります(飛行機で羽田空港へ向かう方が JR で札幌に向かうより早く着いてしまいます...)。支部会員のみなさんは札幌近郊にお住まいですので、私が支部長で不都合はないのだろうかと思いつつ、引き受けてしまいました。皆さんに助けられながらですが、務めていきたいと考えています。

私は、現在、昨年の台風10号による豪雨で被災した一般国道274号日勝峠の復旧工事を担当しています。災害復旧の現場を担当するのは初めてで、勉強と苦労の日々ですが、崩壊箇所、1つ1つが復旧して、道路に戻っていく様子を目の当たりにすると、がんばってよかったなあとうれしくなります。



国道 274 号日勝峠の復旧工事の様子
(北海道開発局帯広開発建設部ウェブサイトより)



東日本支部長就任にあたって 小林千佳（東日本支部）

このたび、北原正代さんから東日本支部長を引き継ぐことになりました、JR 東日本の小林です(現在ジェイアール東日本コンサルタンツ(株)に出向中)。会員数 200 名弱、会の約半分を占めるマンモス支部をこれまでしっかりと支えてこられた北原さんの後、ということで大変な重責ですが、微力ながら努力しますので、どうぞよろしくお願いいたします。支部長の抱負等未だ示せずですが、引き受けた以上はしっかりやりたいというのが本音です。幸い、支部のカバー領域が JR 東日本とかなり重複しており、「首都圏・地方の 2 つの顔」をバランスよく運営することが肝心であると感じてきた経験を生かし、「首都圏としての活動」「地方ローカルの活動」をバランスよく進めていきたいと思っています。会員の中にはさまざまな事情で会の活動に参加しにくくなっている方も多くおられますが、全員が、入会時(加えて年会費納入時)、「私はこのような思いでこの会に参加する!」とのきっかけをお持ちだと思いますので、そのニーズに応えられるような取組みを 1 つでも展開していきたいと考えています。

私自身は、鉄道土木に従事し 25 年余り経過していますが、入会は 5 年前と新顔です。もちろん、会の存在は入社当初より存じていましたが、会社で土木の仕事をするに際し社外の女性と共感する必要性をあまり感じずにきたからか、入会のきっかけを掴めずにいました。しかし、さまざまな機会で会員の皆さんと接するたび、「励まし合い」「研鑽」「働きやすい環境づくり」「評価向上」「助言」といった会の目的を果たすべく取り組んでいらっしゃる姿に深く感銘しました。これまで鉄道土木にお世話になってきたことへの恩返しという意味合いからも、会の発足 30 年を契機に入会致しました。入会後は、女性土木技術者という共通点で親交することの心強さ、心地良さを大いに感じ、また、たくさんの気付きがあり、遅い入会を悔やんでいます。失われた 20 年を挽回すべく、支部長の務めを果たしたいと思います。

今年の総会にて会長より示されたキャッチフレーズ、「カラフル・パワフル・ハートフル」を胸に刻み、「多様な支部を」「やる気十分に」「思いやりを大切に」活動に取り組んでいきたいと思っています。ご支援のほど、どうぞよろしくお願い致します。

【特集2:“見える化”土木技術者女性の会 第2弾:CEへの扉第3版編集ワーキンググループ】

「Civil Engineer への扉 2017 年版」 ができるまで

「Civil Engineer への扉 2017 年版」(以下、CE2017)は、多くの方からの寄附金をもとに作成し、今年の3月末日に5,000部を発行致しました。より多くの方に幅広く活用いただければと考え、制限は設けずに無料で配布しております。おかげさまで好評をいただき、発行からわずか4ヶ月で新たな寄附を募り5,000部のCE2017第二版を発行するに至りました。CE2017は、土木技術者をを目指す方を対象としていますが、すでに土木業界に足を踏み入れている方も男女問わず活用いただける内容だと自負しています。WGは、今後もより多くの方にご活用いただけることを目指し活動していきますので、皆さまの周りでも活用できる機会があればPRいただけますよう、よろしくお願い致します。

この特集では、CE2017の作成の流れについてご紹介致します。

1. メンバー紹介

WGメンバー 藤代祥子*、井上涼子、新藤麻子、水野香織、古谷祥恵 *リーダー
オブザーバー 渡辺弘子、山田菊子、箱田裕子
表紙・裏表紙イラスト 須田 好

※ほかにも、運営委員や執筆者、印刷業者など多くの方にご協力いただきました。

2. 仕様

A5判、36ページ、フルカラー、無料配布

3. 作成のながれ

2014年 6月～	・CE3編集WG 発足 ・方針検討
2015年 1月～	・各所に寄附のお願い ・テーマ、ページ数、配布方法の検討
2016年 1月～	・執筆者の選定開始 ・冊子の仕様検討
4月	・この時点ではページ数 24 ページ! ・デザイン方法の検討
6月	・総会時、渡辺弘子 WG リーダーから藤代へ交代
7月	・執筆者決定! ・執筆、イラストデザイン依頼
9月	・執筆原稿収集
10月	・WG 内で査読開始

のちに執筆者を充実させるため
36 ページに!

渡辺弘子さんが会長に就任され、リーダーを交代することに。WGメンバーのうち役職についていない人ということで相談し、新リーダーを決定。
編集の経験がなくて、正直なところ流れもあまり理解できていなくて、年下で…私で務まるのだろうか…と心配でしたが、新しいチャレンジに少しわくわくしました。



2016 年
11 月

- ・巻き直し会議 in 熱海駅周辺
今後の進め方、冊子の仕様について
※熱海駅の改札で“がんばりましょー”のハグ。効果てきめんでした！！



打合せ中のお食事状況（左から渡辺、山田）

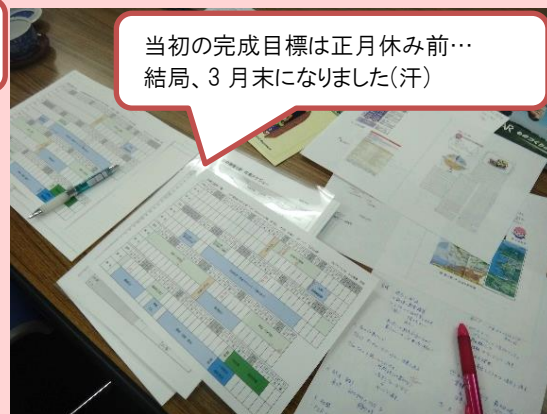
12 月

- ・印刷業者へ発注書を発行
- ・印刷業者との入稿前打合せ in 大阪（清水建設(株) 関西支社会議室）
紙のサンプルを手に取り厚さや見え方の確認、各頁の詳細内容、工程について

紙の厚さは最後まで決められず、2017 年 2 月の中部支部 支部会時に多数決で決めました！



当初の完成目標は正月休み前…
結局、3 月末になりました(汗)



方針や工程の確認、紙の厚さについて打合せ（左から藤代、古谷）

- ・入稿前チェック→入稿
- ・執筆者ページのデザイン決定
- ・似顔絵キャラクターの方向性決定

「記者ハンドブック」と「校正記号の使い方」
今回、初めてこのようなハンドブックがある
ことを知りました！



OR



「キャラクター風」(左)
より「似顔絵風」(右)
に決めました。

参考にした書籍

2017 年
1 月

- ・初校
- ・扉絵「土木のしごと！」精査。
土木技術者として恥ずかしくないよう、何度もやり直しました。その一部は、
総会懇親会レポート（pp.9-10）に記載されています。
※新幹線が単線なのはご容赦ください！

2017 年
2 月

- ・全体会議 in 東京 ((株)フジタ 本社会議室)
- 表紙のデザインを決定、台割(冊子の構成)の決定、用語表記の統一、各ページの詳細について意見を集約、初期送付先の確認、WG の方針…など



左から水野、古谷、新藤、井上、藤代
山田 (ウェブ参加)



表紙案
(ダントツで緑案が支持されました)



打合せ状況



打合せ後の昼食 (早くも乾杯です)

- ・二校
- ・用紙および用紙の厚さ決定

3 月

- ・三校→校了！！
- ※全国にいるメンバーと
メールのやり取りで乾杯しました☆
- ・送付先の精査
- ・寄附者・執筆者ほか関係者、
初期配布先 660 箇所へ送付

祝 納品 祝

納品された時の気持ちは、「とにかく無事に完成して良かった…」と「これで落ち着ける」でした。
・1 月～3 月はとてもバタバタしていたはずなのですが、あまり記憶がありません(笑)
・巻き直し会議の時に「校正って 3 回もいるのでしょうか？」と質問したのですが、本当に必要でした。実際は四校で完成です。立場によって着眼点の違いとても勉強になりおもしろかったです。
・忙しい時期にも関わらず、校正メンバーは細部まで確認してくれました。みなさんの意識の高さに感動しました。
・落ち着けると思いましたが、好評をいただきわずか 1 カ月半で増刷の見積りを取るなどとても驚いています。みなさんにご活用いただけて嬉しいです！

6 月

- ・WG 名を **CEWG** に変更し再出発！

報告：藤代祥子(Civil Engineer への扉 WG リーダー)

CE3(2017 年版) 編集 WG メンバー 編集後記

WG リーダー 藤代祥子

2017 年版は、作業のピークが 2016 年 12 月～2017 年 3 月になってしまい、執筆やデザイン・校正メンバーの皆さんにご無理をお願いしながら進めました。…が、本当に多くの方が快く(!?) 協力してくださったおかげで、こだわりを通しながら完成させることができました。誠にありがとうございました。

私は、初めて当会の WG を担当しました。その中で、絶対にフォローいただける安心感、当会特有の多方面(多様な所属機関や専門、立場など)からの視点によって作り上げることの楽しさや大変さを知りました。

冊子は、3 月末日に発行し、すでに 7 月に第二版を発行、10 月には電子ブック版(p.29)も完成しました。より多くの方々に活用いただけると嬉しいです。



井上涼子

編集会議に参加した時は、びっくりしました！ 既に、素晴らしい表紙扉絵ができていたのです。やはり、扉絵の編集は大変でしたね。みなさん、土木屋だけあって、思い入れが細かい！！ 橋脚の位置がおかしい、道路の白線が足りない、ダム構造は…などなど。素晴らしい冊子ができ上がったと思います。多くの女子学生に届くといいな。

紙質も大きさも色合いも！ こだわっただけ良い物ができましたね。ひとえにリーダーのお力です！ 貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。



新藤麻子

私は土木系学科の出身ではないので、会社に入ってから土木と携わるようになりました。仕事の関係で土木工学科の研究室に 2 年間お世話になった時生物を利用して下水処理を行ったり、環境の水質のことを考えたり、水道を整備したりすることが土木の分野なのだとことを知り、驚いたのを覚えています。人々のあらゆる生活を支えるのが土木です。身の回りにはとても多くの土木技術者が活躍していることをこの冊子を通じて知っていただき、冊子だけではなく本当の Civil Engineer への扉を開いてもらえたらうれしいです。



水野香織

「継続は力なり！」
3 人の先輩会員からメッセージをいただきました。まさしく先駆者の皆さんです。

いずれのメッセージを読んでも、私自身「ドボジョになってよかった！」と改めて感じる事ができました。未来の「女性土木技術者」のみなさんへのメッセージですが、現在の「女性土木技術者」にとっても素敵なページができたと思います。

入社 20 年目…私も継続します！
そして、裏表紙にもご注目ください！

1999 年版から継続する表紙のくまさんにも、2017 年版で力強い仲間が二人できました！



古谷祥恵

激似！ と評判の似顔絵。担当した中で唯一、変更依頼をしたのが後田さん(右図)です。後田さんの特徴は何と言っても笑顔。自然に周りがほっこり and 雰囲気包まれます。



そこで、きりっとしっかり系だった当初案を、笑顔の癒し系に変更する要望を出しました。あいさつを大切にしているという彼女の言葉を、この笑顔で表現できたのではないのでしょうか。そして私は、振り返ると 2006 年版に大変恥ずかしい文章を書いているのですが、この 2017 年版が発行できたことにより、新しい方に建設会社の魅力を紹介できることを喜んでいます。



“CE2”(2006年版)の私へ

過去の「Civil Engineer への扉(2006年版)」通称“CE2”に執筆いただいた方々に、
少しだけ、「あの頃」を振り返っていただきました。



“CE2”の小畑さん

“CE2”を改めて読んだ感想/小畑敏子

最近、異常気象のためか各地で豪雨が発生しています。被害に遭われた方々には、心よりお悔やみ申し上げますとともに、復旧に取り組まれている方々におかれましては、体調を崩されませんよう、陰ながらお祈りしています。改めて、CE2 を読んでみますと、あの時の熱い思いが感じられ、初心を忘れずに精進しなければと感じています。CE2 を書いてすぐの平成 18 年 4 月に庄内川河川事務所の工務課へ移動となり、念願だった、環境に配慮しながら設計する仕事の一部に携わりました。しかし、その結果は、散々でした。学識経験者や市町の意見を取り入れながら魚道の設計を進めたのですが、魚がのぼらず、環境団体から苦情が入るありさま。また、「水辺の学校」の一環として、単調な低水路護岸の一部を壊し、子どもたちが水生生物調査を行えるように整備したものの、堆砂が激しく、毎年のように川底を掘らなければならないような状況です。現在は、その時の苦い経験を心に留めつつ、木曽川下流河川事務所の弥富出張所にて工事監督を行っています。

CE2 を執筆後、子どもが生まれ、仕事一筋とは言えなくなりました。そのような状況で、今も資格を取ろうとする前向きな気持ちは大事だと思っています。また、今の仕事から学ぶことも多いと感じています。例えば、工事現場における騒音、振動の測定方法や評価方法。また、国土交通省の施策の一つ、「i-construction」に基づく施工方法や、施工した後の出来形管理など、知識を身に着けながら、即実践する必要があります。資格にとらわれず、失敗にめげず、継続して学習する気持ちを大切にしていきたいと思っています。

“CE2”の扉の頃をふりかえると??? /島村亜紀子

「だいぶ古くなったので」「だいぶ古くなったから改訂を」といった言葉を良くきくようになって、だんだんと記憶の奥底に行っていた 10 年以上前の CE2 の自分の文章を、久々に読みました。

当時に比べると、倍以上の年数を過ごしてきたことになるのですが、土木に対する想いは変わっておらず、ずっとこの想いが土木屋としての自分を支えてきてるんだなあと思いました。

1 点だけ引っかかったのは、次のくだりでした。「残念ながら、まだ建設業界は女性社員の割合が非常に低い業界です。」とにべもなく言い切っているところですが、今でも少ないのは事実かと思うのですが、今は、少子高齢化社会の中で女性の労働力が必要、女性活躍推進、女性職員・管理職を増



“CE2”の島村さん



やすという政府方針のもと、業界全体がそれへ向けて努力している状況です。今は、もうちょっと言い回しを考えるくらいしないと、「なんてこと言うんだ！ そんなこと言い切って突き放すような姿勢でいちゃだめじゃないか。」とお叱りを受けそう…と思いました。

土木女性技術者の皆さんと話していると、みんな土木が本当に好きなんだなあと、いつもとても嬉しくなります。順風満帆というにはちょっと難しいかもしれませんが、この追い風の中、土木を好きなみんなが、土木の世界で輝いて、自信を持って働けますように！

“CE2”の私へ/古谷祥恵

2回の出産のたび部署を異動し、当時は営業に配属されたばかりでした。新しい業務を知ること、覚えることが楽しくて嬉しくて。張り切って執筆をお受けしたことを覚えています。

数年後、読み返した時の思いは、ゼネコンの営業ってこんな紹介でいいのか!? 穴があったら入りたい！ しかし、次の版が出るまで、配布は続くのです…第3版…それしかない！

実は、そんな思いからCE3の発行を熱望し、WGメンバーを志願しました。第2版の他の執筆者の皆さま、本当に、本当にごめんなさい！！ そして現在も変わらず営業です。完成したモノや完成までの過程を評価いただくことはあっても、モノを売るわけではない建設会社で「営業とは何か」を今も模索しながら、会社への貢献を高める努力を続けています。



“CE2”の渡辺さん

“CE2”の私へ/渡辺弘子

あれから 11 年たちました。安寧な大樹の陰を出、安心な大船から降り、安泰な日の丸の代わりに頼りない月のマークの帆を上げ、大洋に小舟で乗り出しました。風雨に揉まれたことも、大ダコに吞まれそうになったこともありましたが、でも、気づけば海上にも海中にも空中にも、助けてくれる仲間がたくさんいました。航海術は上達していませんが、気負わずとも波間に揺られていることはできるようになりました。笑顔で仕事をしていたあなたが今の私の一片であるように、今の私もこれから先の私を形作る一片となるのでしょう。そうであるなら、多少のやせ我慢はしても笑顔でいたいと思います。私たちの航海をこれからも続けていきましょう！

“CE2”の私へ/松本香澄

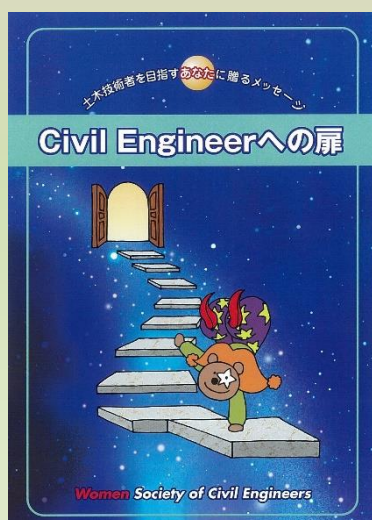
この1年、CE2017の寄附依頼にあたり、宣伝チラシと共にCE2をかなり活用しました。その際には「こんないい冊子があるんですよ～。私たち土木女子は先輩が少ないので、どういう風に過ごしてきたかがいろいろな業種ごとにわかる冊子なんです。ただ作成してからちょっと時間が経ってしましましてね・・・」と自分のページを見せて、「ああ～(**)(このマツモトさんの写真からすると相当古いな)」と思わせて、寄附をいただく。そんな客商売をしていたことを思い出しました・・・泣。

CE2当時と比べても、仕事に対する心意気は変わっていないつもりです(見た目も変わっていないつもり(笑))。ただ、その後の10年の間に、楽しいこともあり、苦しいこともあり、それなりに人間の熟成は進んだかなあ～と思っているところ。

当時、どの時点で力尽きるかと思っていたのに、今も土木女子を語っている自分は、予想外でもあり、まだまだ発展途上です。いま登っている山は高く険しい。でも山登りもまた楽し、かな。



“CE2”の松本さん



CE2(Civil Engineer への扉 2006 年版)の表紙
(2006 年版の配布は終了しています)



Civil Engineer への扉 2017 年版が電子ブックになりました！！

より多くの方に気軽にご活用いただけるよう、CE2017の電子ブック版を製作しました。

電子ブックは、スマートデバイス(パソコン、スマートフォン、タブレットなど)があれば、いつでも・どこでも・だれでも、すぐに閲覧が可能です。拡大・縮小、ペンや付箋機能もあり、その操作方法も非常に簡単です。ぜひ一度ご覧ください！

◆電子ブックの製作には、寄附金を活用させていただきました◆

■電子ブック掲載先:

http://www.womencivilengineers.com/ce2017_ebook/



ちょっと一息

【私の通勤時間♪】

ここでちょっと一息。

今回のテーマは「私の通勤時間」です。

通勤時間のお楽しみや、有効活用術など、皆さんの通勤時間の過ごし方を紹介します。



【通勤途中のこんな風景に癒されます♡】

■以前の職場で。

通勤はマイカーだったので早く帰宅できる時は職場近くの絶景ポイントへ寄り道。夕陽に朝陽、夜景や紅葉、棚田や海、白い海岸・・・撮影スポットの宝庫でした。

特に夕景が綺麗で、水平線に落ちていく夕陽を見ながら汚れ切った心を洗濯していました。

せっかく縁があって、この土地で働いているので夕陽の絶景ポイントを紹介しようと自分のFBに投稿したところ会社の先輩から「たそがれネタが多いけど、もしや充実していないの？」と心配するコメントが・・・

もう・・・ガッカリ(涙)

(西日本支部)



加太の夕日

●編集者のつぶやき⇒加太の夕日とっても素敵です。その地域の素敵な風景を楽しめるって、とてもリア充です。でも、とらえ方によっては逆に充実してないって思われることもあるんですね。勉強になります(笑)

■電車通勤しています。

とある小河川を渡河するとき、運が良ければヌートリアののんびりした姿を確認できます。

ヌートリアは外来生物法により特定外来生物に指定されているので、餌やり厳禁ですし駆除の対象でもあります。

しかし、ゆるやかな流れに点在する石のうえでボーッと一方向を眺めていたり、なぜか両手で胸元にチャブチャブ水をかけていたりすると、朝からいい感じでテンションが上がってくれるのです。

(西日本支部)

●編集者のつぶやき⇒ヌートリア。私はすぐに、どんな動物か思いつかなくて、ググってみました(汗)。

ネズミの仲間なんですね。こんなかわいい風貌して、結構鋭い歯や爪を持っているそうです。

胸元にチャブチャブ水をかける姿、想像するだけで癒されます。



農林水産省ウェブサイトより引用



【通勤時間を有効活用！】

■私は札幌市に住んでおり、片道で徒歩 30 分＋地下鉄 20 分の通勤時間です。

いつも下記のようなことをして過ごしています。

▷技術士の勉強

来年やっと受験資格を満たすので、スマホ教材で勉強しています

▷献立作り・ネットスーパー注文

毎週金曜日に一週間の献立を作って、それに必要な食材や日用雑貨を注文しています。

衝動買いや余計な買い物が発生しませんし、買い物に行く手間が省けるので他の用事に時間を費やせて助かっています。

▷早歩き(笑)

片道 30 分も歩くので、数少ない運動の機会を減らすまいと大股早歩きをやっていきます…

(次頁に続く⇒)

自宅近くから会社までサイクリングロードが整備されています。本当は地下鉄ではなく自転車通勤を想定して現在のマンションを住まいに選びました。

…が、気力不足と最近の暑さ(北海道のくせに)ですっかり地下鉄通勤が定着してしまいました(^-^;でも、こうして通勤時間を効率的に使えているので良いかなと思っています。

また、通勤時間の出来事としては地下鉄のマナーがとても良いと日々思っています。

札幌の地下鉄では、優先席には本当に優先されるべき人しか座っていません。電車が満員でもお年寄りや体の不自由な方等が車内にいない限り、必ずといっていいほど空席になっています。私は大学まで東京で生活していましたが、この光景に毎朝感動しています。必死に席取りをしていた学生時代の自分に喝を入れたいものです(^;

(北海道支部)

●編集者のつぶやき⇒献立作りとネットスーパーいいですね！ なかなか面倒な献立作りと買い物通勤時間にできて、おまけに買い過ぎないというおまけ付き♪ スーパーに行くと、ついつい unnecessaryなものまで買っちゃうんですね。見習わせていただきます(o^-^o)

【ほっこり♡ 大切な子どもとの時間】

■私の通勤時間は、歩いて 20 分ほど。他の方々に比べれば、ほんの短い時間ですが、一緒に通学する子どもとの大切な時間でもあります。

大きくなってきて、学校に行く際は恥ずかしいのか、手をつないでくれることもなくなってしまいました。

先日の私の誕生日、恥ずかしそうに、そっとつないでくれたかわいい手。

忘れられないプレゼントとなりました。

現在、小学 6 年生。一緒に過ごせる通勤時間も、あと少し。親子バトルもありますが、娘との通勤時間を大切に過ごしたいなと思います。

(西日本支部)

●編集者のつぶやき⇒めっちゃ、いい話！！ 読んでいて、ジーンと感動しちゃいました。子どもの成長は嬉しいですが、だんだんと離れて行ってしまう寂しさ。

でも誕生日に、そっと手を握ってくれるなんて、嬉しすぎる！ かわいすぎる！

ほっこりさせていただきました。

【愛車「四つ葉」でカラオケ大会】

■愛車「四つ葉」で半分山道を 1 時間かけて通勤しています。車の中での楽しみはラジオに流れる曲に合わせての一人カラオケ。車の柄が特徴的なので近所でも有名。「隣を走ってたのに気づかなかったでしょう？」と言われて謝ることもしばしば。だって一人の世界に入ってるんだもん。ちなみに「四つ葉」は東北では「よつっぱ」と発音します。

(東日本支部)



愛車「四つ葉（よつっぱ）号」

●編集者のつぶやき⇒愛車「よつっぱ」とっても CUTE です！ こんな車と一緒に、通勤時間もウキウキしちゃいます。一人カラオケ、楽しいですよ。私も、よく自転車乗りながら歌っていました。気分すっきり、いい気分転換です(^▽^)

【山岳土木現場の通勤時間の楽しみ方♪】

■月曜（自宅→現場事務所（まち）1 時間程度）
早朝、愛車のターボ車のエンジンを温め始める。マンションなので、朝早いから、ちょっと気を遣いながら、建物からなるべく遠い位置で。1 週間分の荷

物を積み込み、運転席に座ったら、時計の時刻を分単位まで確認。さて、スタート。市街地のはずれの私の家からは、少し走れば、信号がほとんどなくなり、峠に差し掛かる。ここから勝負！そして現場事務所駐車場着で、時計を再確認。月曜朝一番の会話は、自宅が近い副所長、課長と、今日の通勤時間勝負どちらが早かったか？他の人の「なんてくだらない」との冷たい視線を感じながらも、あのカーブが、あそこの信号にひっかかったのが、今日〇〇で覆面が潜んでいるのを見つけたなどと熱く話をする。

■月曜から土曜の毎日（現場事務所（まち）⇔現場事務所（山） 30分）

現場事務所（まち）から、現場事務所（山）まで、車で約30分かかる。現場事務所（山）は、当工区のほぼ中心にあるが、工区内の上流端から下流端までは1時間程度。携帯は圏外のため、現場事務所（山）に無線基地を置き、全員が無線を腰に下げる。さて、現場用のジープ？に乗り、悪路を山へ向かって上る。雨が降った日などは、わだちができてしまっても走りにくい。道幅も狭いので、安全運転、安全運転。それでも、先の課長と私は、事務所内バンク回数のトップを争っている状態で、「おまえら飛ばして、鉄板の角などを勢いよく走ってしまうからバンクするんだ！」といつも大目玉。

さて、その30分、何をして過ごすか。携帯圏外は前出であるが、FMも入らない。一番多いのは民放のAMを聞く人。どの車でも手軽に聞ける、地元のネタが多い、演歌が聞けるなどがその理由。次点は、自分の好きな曲をかける。私の過ごし方は、カラオケの練習をする！本来、あまりカラオケが得意でなく、東京にいるときは、歌わなくても済んでいたが、現場に行くとこれが歌わずに済まされない…。2次会は必ずカラオケ付のスナック。女性が少なく目立つので、歌わないことを許してもらえない、デュエットを歌ってほしいなどなど。それでも渋っていたら、これを練習するように！と演目がいくつも舞い込んでくるようになって、それを通勤の車の中で、ひとり大声で思う存分？練習！

一般車進入禁止の林道&工事用道路なので、オコジョ、エゾリス、キタキツネ、足を延ばせば全長1mはあろうかというユキウサギなどにも会う。ヒグ

マを目撃した時は、発注者に目撃報告書をすみやかに提出する。ある日、朝、通勤に山へ上がっていると、途中でユキウサギがひかれていた。朝礼まで時間がなかったので、一度山へ上がったが、朝礼後すぐ戻り、当方の工区内のすみの静かなところに埋めた。前日まで仲良く2羽で遊びまわっている姿を目にしていただけに、本当に悲しかった。

■土曜（現場事務所（まち）→自宅 1時間半程度）

月曜の朝、あれだけ？飛ばしているのだから、土曜の帰りもさもありなん、と思われるかもしれないが、残念ながら、土曜の帰りは混む時間帯にあたるため、のんびり運転。土曜の帰りの通勤時間（運転時間）は、週末何を作ろうかなと、お休み中の一番のストレス解消である、料理のメニューを考える。自宅が近くなってくると、家々も増え、大型スーパーもいくつか出てくるので、その日のメニューに合うおいしい食材があるスーパーに寄って、大量に買い込んで帰り、美味しいものをいっぱい作り、今週もおつかれさまでした！のビール！

（北海道支部）

●編集者のつぶやき⇒北海道の山岳土木の現場ってすごいですね。ジープや野生動物との遭遇…。私の想像をはるかに超えていました。個人的には、スナックのところ、とても共感できます（笑）

一週間、バリバリ仕事されて、週末のビール、最高ですね！



いかがでしたでしょうか？投稿してくださったみなさま、ありがとうございます。これを機に、みなさまの通勤時間が、よりよい時間となることを祈っております♪

【まとめ：菅 直子（西日本支部）】

会員レポート ～土木体験いろいろ～

“土木”の仕事は実に様々！ それゆえ当会にも実に個性豊かでいろいろな体験をしている会員が集まっています！



土木技術者女性の会を通じて

田口未由希（西日本支部）

私が土木技術者女性の会を知ったのは、大学4年生の時に大学の助教に誘ってもらった女性技術者の座談会がきっかけでした。その当時は、こういう会があるんだ、暇な時に今度行ってみようかな、くらいにしか思っていませんでした。今思うと、あのタイミングでこの会の存在を知り学生会員として入会できて本当に良かったと思います。

私は数回、懇親会などに参加し、公務員やゼネコンやコンサルなどさまざまな職種の方のお話を聞くことができました。この会を通じて普段会えない方々と知り合うことができたり、大学では学べない話などを聞くことができ、本当に貴重な経験をさせていただいたと思います。

そして、私は今年の4月に建設会社に就職し、トンネルの現場に配属されました。現場では毎日ものすごい高さの階段を上り下りしたり、かつてないスピードで日焼けしたりと、学生時代とはまったく異なる生活を送っていますが、充実した日々を過ごせているなと感じています。今はまだ先輩社員や作業員さん達を質問漬けにする毎日ですが、いつか頼られる現場監督になりたいと思います。

また、それと同時に土木技術者女性の会を通じて、普段現場の仕事をしているだけでは会うことのできないさまざまな方と繋がりたいと思います。こういった土木業界での横の繋がりを得ることができるのは、土木技術者女性の会員の特権だと思いますし、こういった機会をどんどん利用して視野の広い人間へ成長していきたいです。そして、私は学生の時にこの会で多くのことを学ばせていただいたので、恩返しとして今後、学生に建設の仕事伝えていけるような人間になれたら良いなと思います。そのためにも、今は日々勉強し立派な現場監督になりたいと思います。



古代のドボジョに思いを馳せて

澤田茉伊（西日本支部）

わたしは、大学院で地盤工学の専門の立場から、古墳の修復・保存のための技術を研究しています。最近、奈良県明日香村では、飛鳥美人で知られる高松塚古墳や、四神で知られるキトラ古墳の彩色壁画の修復が完了し、一般公開が始まるなど、関西では古墳はたびたび話題になっています。

古墳は、将来に保存すべき地盤遺跡ですが、築造から1300年以上が経ち、自然災害や盗掘・宅地開発により、損傷を受けています。従来、修復・保存は考古学や保存科学といった分野で扱われて

きましたが、地盤工学の知識が必要とされる場面も多くあります。たとえば、降雨や地震によって、石室（埋葬施設）を覆っている墳丘が崩壊したような場合には、盛土の力学的な安定性や水の浸透問題として扱い、なぜ崩壊が起こったのかを説明して、適切な修復方法を提案することが求められます。遺跡なので、実施できる地盤調査はかなり制限され、修復方法は古墳の本来の価値を損なわないものであることが条件ですが、外観上元通りにするだけではなく、工学的な観点から見て必要な箇所は補強を施して、後世に受け渡すことがモットーです。

わたしがこの研究テーマに取り組むようになって初めて携わった古墳は、明日香村の牽牛子塚（けんごしづか）古墳で、最も思い入れが深いもののひとつです。変わった名前ですが、牽牛子は朝顔という意味で、現在では原型を留めていませんが、朝顔の花のような八角形の墳丘をしていたことが考古学的な調査から明らかになりました。また、巨大な凝灰岩を削り貫いて造られた埋葬施設は二部屋に分かれていて、斉明天皇とその娘が葬られた可能性が高いと言われています。

歴史はまったくの素人ですが、この斉明天皇という人物、調べてみると惹かれるところがあります。斉明天皇は人生で二度も皇位についた女帝で、一度目は崩御した夫の跡を継ぎ、その後クーデターを機に弟に譲位し、晩年再び皇位についたそうです。土木工事を好んだことでも知られ、宮殿やその資材を運ぶための運河など、難工事を行ったことから、人々の反感も買ったようですが、彼女は政治の立場から土木に携わったドボジョであったのかもしれません。

そんな彼女の古墳で墳丘断面に触れて調査をしていると、人々が手で土を撒き出し、搗棒を使って締固めていた遠い昔を想像します。古代人は、被葬者の死後の世界の安寧や、将来にわたってその存在が大切にされることを願って、大変な時間と労力を注いで、古墳を造ったと思います。平成の土木技術者として、時間を越えて彼らの願いを叶えるお手伝いが少しでもできれば良いなと思います。



牽牛子塚古墳の全景 墳丘
(写真右側部分など)が降雨で崩壊しました



牽牛子塚古墳の埋葬施設
「牽牛子塚古墳発掘調査報告書」
(明日香村教育委員会, 2013)より転載

私のこれまでと、これから

露木三津子（東日本支部）

いつの間にか、若手とは言えない年齢になってしまい、人生においても折り返し地点かと思われる時期に、投稿依頼をいただいた。今後を考えるよい機会だと思いお受けした。

まずは、これまでを振り返ろうと思う。なぜこの業界に入ったのだったか？

中学生の頃、戸建建築に興味があった。自宅を建て直すなら…と何案も方眼紙で設計図を描いたものだった。高校生になり、大学で何を勉強したいかと考えた時に、進路案内雑誌の建築学科の隣のページにあった土木工学にふと目がいて、対象が大きいなあに興味を持ったのが始まりのように思う。大学に入学後は、都市計画、橋梁等と興味は移り変わり、トンネル研究室に行き着いた。

どうしてもトンネルの仕事がしたいと、トンネル専門の建設コンサルタントに入社。好きな勉強を仕事にしたいという発想で、選んだわけだが、入社面接の際に言われたことで印象に残っているのが、以下の言葉だった。

- ・我々の仕事は、国民がお客様の仕事である。
- ・現場の経験を積むことは大事。かつ想像力を持つこと。

最近になってようやく意味がわかってきた気がする。社会資本の安全・安心のために責任重大な仕事であり、経験を踏まえながらも、新しい視点に立つことも大事だと思う。

知らないこともまだ多く、「20 年間、何をして来たのだろうか？」と落ち込む時もあるが、前述の言葉がわかるようになったことは仕事での経験や、お世話になった方からの影響を経ての自分の成長かと考えると嬉しい。

さて、これから！ どのように進んでいこうか。

仕事がおもしろいという思いは変わらず、まだまだ勉強の日々であるため、会社外の横のつながりを積極的に持って、技術者としての幅を広げていきたい。また、当たり前にある道路や橋が、実は手入れをしないと壊れてしまうことなど、土木の世界は、生活の身近に存在するということを、私なりに、発信していけたらよいと考えている。

最後に、これまで仕事を続けてこられたことについて、同僚をはじめ、お世話になった方々や、家族の協力に感謝するとともに、今後ともよろしく願いますと伝えたい。

イベント・活動記録

○日時

○場所

○参加者

■第5回総会

○2017年6月16日(金)、17日(土)

○ウィルあいち 他

○総会 55名、見学会 30名、懇親会 36名

皆さまにご協力をいただき、総会および各種関連行事を無事に開催することができました。2日間にわたり、多くの方に出席いただき、本当にありがとうございました。(⇒詳細 p.2)

■「Civil Engineer への扉 2017年版」完成イベント

○2017年6月17日(土)

○ウィルあいち

総会終了後、支部主催行事として「Civil Engineer への扉 2017年版」完成イベントを行いました。CE 2017にかけた熱い思いをみなさんにお届けできたのではないのでしょうか。イベントには、サポーター2名がご参加くださり、今後の活動を支援したいとの発言もいただきました。(⇒詳細 p.11)

■女子中高生夏の学校 2017・ポスター展示への参加

○2017年8月6日(日)

○(独法)国立女性教育会館 会議室

○時弘みどりさん(当会副会長)、渡部瑠依子さん(当会学生会員)

夏の学校は、女子中高生(約150人)が、科学者や技術者との対話・交流を通して、科学技術分野に自分の新しい可能性を見出す機会として、毎年、国立女性教育会館において、関係する科学系学協会等が参加して開催されています。本年は、土木学会市民交流研究小委員会にご一緒させていただき、橋梁の模型等を使いながら土木の楽し

さ・おもしろさを伝えました。将来の選択肢の一つとしての土木の世界を伝える場となりました。

■(一社)セメント協会 開発・普及委員会での講演

○2017年8月8日(火)16:00~17:00

○(一社)セメント協会 会議室

○渡辺弘子さん(当会会長)

セメント協会に所属する企業の社員約50名(うち女性事務職員約10名)に対し、女性土木技術者の視点から、女性活躍に対してセメント業界に期待することを講演しました。また、当会の活動を紹介するとともに、女性技術者の就業継続支援に活用していただくようCE2017を配布しました。

■若鮎会(岐阜工業高等専門学校同窓会) 設立50周年記念事業での記念講演

○2017年9月9日(土)13:00~17:00

○長良川国際会議場

○所 靖子さん(当会元会長)

岐阜高専卒業生・在校生や岐阜高専に進学を志望する中学生ら、約600名に対して、「トンネルに風穴はどのように開いたか」と題して、記念講演を行いました。トンネル工事監督者となるまでの道のりや、同校で恩師に教えていただいた孔子の言葉等を紹介しました。

■港湾技術報告会での基調講演

○2017年7月19日(水)13:30~16:40

○ルポール麴町

○山田菊子さん(当会会員)

「国土・人・技術をつくる」と題して開催された平成29年度港湾技術報告会(主催:(一社)日本埋立浚渫協会)において、「人をつくる～女性技術者育成のこれまで、これから」と題して講演するとともに、参考資料としてCE2017を配布しました。歴史、現状の紹介ののち、女性技術者が所属組織の外とつながることの重要性を話しました。会員企業の女性技術者が10数名参加し、懇親会でも活発な交流が行われました。



【北海道支部】

■国土交通省北海道開発局札幌開発建設部との合同現場見学会・交流会

○2017 年 7 月 26(水)

○[見学会] 新桂沢ダム(直轄ダム初の同軸嵩上げ工事現場)

[交流会] 岩見沢道路事務所

○24 名(当会会員 7 名)

札幌開発建設部との共催。お天気に恵まれ、とても楽しい見学会でした。女性技術者が一堂に会し、職場や家庭における女性ならではの悩みやその解決方法等の情報交換ができるネットワークが広がりました。会員の紹介で来て下さった方(5 名)も若い方ばかりで、そういう方々にとって有意義なものになっていれば良いなと思っています。



【東日本支部】

■「女性の学び応援フェスタ in TOKYO」

ポスターセッションへの出展

○2017 年 2 月 19 日(日)12:00~17:00

○東京ウィメンズプラザ

文部科学省より平成 28 年度「男女共同参画社会の実現の加速に向けた学習機会充実事業」を受託した全国女性会館協議会より、当会の活動を紹介してほしいとのお話をいただき、ポスターを出展しました。



■土木学会東北支部他との共催 現場見学会

○2017 年 7 月 21(金)~22 日(土)1泊2日

○東北中央自動車道建設現場(山形県米沢市)、玉川第二発電所建設現場(山形県小国町)

○43 名(当会会員 8 名)

見学会のあとは、米沢牛の焼き肉での懇親会で、大いに盛り上がりました。東北地方の女性土木技術者ネットワークの深化と拡がりを実感しました。



【中部支部】

■支部会・新年会開催

○2017 年 2 月 25 日(土)

支部会 11:00~12:30

新年会 12:30~14:00

○[支部会](株)日本ピー・エス 中部支店会議室

[新年会] ONE on ONE Garden Restaurant

○参加者:会員 8 名

2017 年度総会に向けての打合せを行いました。引き続き、新年会、有志による 2 次会を開き、コミュニケーションの機会としました。

■支部会

○2017 年 5 月 21 日(日)10:00~13:00

○(株)日本ピー・エス 中部支店会議室

○会員 8 名

2017 年度総会に向けての打合せを行いました。



【西日本支部】

■現場見学会

○2017 年 8 月 9 日(水)14:30~16:30

○国道 25 号難波元町立坑復旧工事(大阪市)

○16 名(当会会員 11 名)

当会会員の広野彩さんが監理技術者兼現場代理人として勤務する現場で見学会を開催しました。本工事の特徴である太径鉄筋の施工等について説明を受けた後、内径 16.8m という限られた空間で行われている鉄筋の組立作業や、実際に組み上がった鉄筋を見学しました。

【まとめ:深瀬尚子(西日本支部)】



メディア掲載

会のウェブサイトには最新情報を掲載しています。

<http://www.womencivilengineers.com/related-article>

サポーターおよび新規会員募集

一般社団法人土木技術者女性の会では、当会の活動をさらにパワーアップするため、私たちの理念に賛同し、継続して活動を応援して下さる「サポーター」を広く募集いたします。皆さまのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます！

<http://www.womencivilengineers.com/admission/membership-type>

寄附制度のご案内

土木技術者女性の会は、土木学会誌(1982年9月号)に掲載された「座談会：女性土木技術者おおいに語る」がきっかけで1983年1月に発足しました。任意団体として30年の長きにわたり活動をし、2013年11月18日(土木の日)に一般社団法人 土木技術者女性の会として新たなスタートを切りました。全国規模での総会、見学会やセミナー、シンポジウムや支部による活動などを通じて、女性土木技術者、将来の女性土木技術者に対して幅広い年齢層のロールモデル提供の場、指導者育成の場、キャリア継続支援の場を提供しています。

つきましては、当会の社会貢献活動への取組みをご理解いただき、是非、一般社団法人 土木技術者女性の会への御寄附をお願い申し上げます。

<http://www.womencivilengineers.com/donation/guidance>

＜編集後記＞

深瀬尚子（編集長）

お待たせしました！「秋号」と言いつつ、冬の足音がすぐそこまで…。今回は総会を終えたばかりの中部支部メンバーと、「CE2017」を完成させた CE への扉第3版編集 WG のメンバーに多大なる協力をいただきました。ありがとうございました！

西村和恵（北海道支部）

初めて「輪」の編集に携わりました。「CE2017」の編集には大変な苦労があったこと、身に染みました。そして「CE2 の私へ」はとても感動しました。今回は何もできなかったのですが、次回から頑張りたいと思います。

鈴木明子（東日本支部）

今回は総会に出席できず、原稿の作成も全くお手伝いできていない状況なので、大変申し訳なく思っています。「CE2017」の完成記念イベントの様子や製作の経緯が載っていて、皆さんが細部まで検討を重ねて発行に至ったことが分かり感動しました。個人的には、扉絵と似顔絵の製作経緯が載っていたのが面白かったです。

森瀬真琴（中部支部）

今回は中部支部での開催のため、久しぶりに総会にも参加できて、とても元気がもらえた1日でした。二人目を妊娠し、仕事も途中から休んでしまいましたが、総会の2日前の検診で「臨月なので動き始めていいですよ。」と言われたのを家族への言い訳にして、久しぶりの外出を楽しみました。岡本さんや仲松さんにも助けていただき、参加できなかった見学会や懇親会等の活気が伝わって、またまた元気をもらえました！ 皆さん、ありがとうございました！！

岡本茉莉（中部支部）

今回の「輪」に初めて総会特集のサポートとして参加しました。入会して1年足らずですが、総会や「輪」に関わることができ、光栄です。分かりやすく楽しい記事になるよう精進していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

仲松ジャニス（中部支部）

女性の会には入会したばかりでしたが、今回は名古屋での開催で、また、「輪」の編集の方でも関わらせていただけたことで両日とも参加できました。写真を撮ったりすることで大勢の方と関わることができたため、とても充実した時間を過ごすことができました。今後も、行事等に参加させていただきたいと思います。

菅 直子（西日本支部）

現在2人目の育休中で、5か月になる娘と家でゆっくり過ごしています。仕事を休んでいると、社会から取り残されているようでなんとなく焦ったり、モヤモヤした気持ちが湧き出てくることもあります。成長著しい可愛い盛りの子どもと、ずっと一緒にいられる時間は今しかないの、今の日々を大切に過ごしていきたいと思っています。

「輪」への投稿・ご意見は「輪」編集委員へ、
その他のお問い合わせ、ご意見は事務局まで、お願いします。

「輪」編集委員：rin@womencivilengineers.com

事務局：infoswce@womencivilengineers.com

【「輪」編集委員】

深瀬尚子(編集長)

鈴木明子(東日本)

岡本茉莉(中部)

菅直子(西日本)

西村和恵(北海道)

森瀬真琴(中部)

仲松ジャニス(中部)

【事務局】

松本香澄(事務局長)

〒150-0002

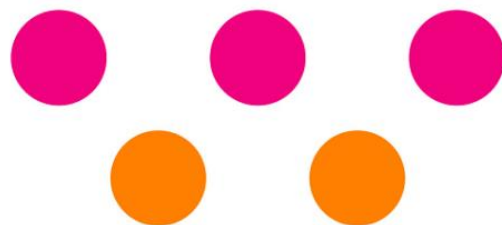
東京都渋谷区渋谷三丁目1番9号矢沢ビル4階

TEL 050-3738-4975

<http://www.womencivilengineers.com>

「輪」2017年度 秋号(第62号)

2017年 11月 20日発行
一般社団法人 土木技術者女性の会
The Society of Women Civil Engineers



The Society of
Women Civil Engineers

一般社団法人 土木技術者女性の会
「輪」 2017 年度 秋号(第 62 号)